



マメコブシガニ

ロマンチックな浜のふれあい観察会

日 時：2010年6月12日 晴れ

場 所：検見川・稲毛の浜

参加者：31名（大人21名、子ども10名）

盛一昭代（千葉市）

しおかぜ9月1日号「コアジサシ営巣地と浜辺の生き物」をご覧ください。
12～15行目のどこが違っているか、お気づきですか？ マメコブシガニの習性をご存じの方は、おや？と思われたことでしょうか。このカニは交尾する前にメスを後ろから抱っこして、何日か共に過します。「ボクのDNAを残してくれませんか」なんて、ブツブツささやきながらキープしているのです。

交尾の瞬間は互いに向き合う体位で、メスの脚をしっかりと挟んで行います。それから数日後、1匹で腹帯の中の腹肢の粘りのある毛に約5万個の卵を産み、抱いて大切に育てます。約1ヶ月後の大潮の夜の満潮時に、やっとふ化したゾエア幼生を海に放つのです。その時、周りの海水が泡立ち、多少クリーム色に染まるかもしれません。



交尾

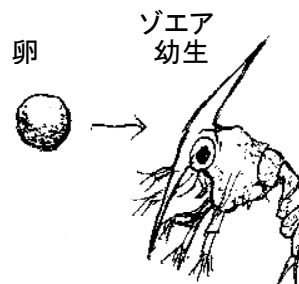
さて、観察会当日、海が一面ピンク色に染まっていたのは、赤潮と思われます。東京湾ではよく見られる現象で、富栄養化の進んだ海水で植物プランクトンが大量増殖すると海が褐色に見えます。観察会で若い父親が小学5年生の息子に語りかけた言葉「見てごらん、カニが交尾して産卵したので、辺りがピンク色に染まっている。今日は大潮だから、海の生物があちらこちらで産卵しているらしいね」。私の班の皆さんはそれを聞き、大変感動しました。誇らしげにメスを抱いて、潮風にじっと身を任せているオスガニは、干潟の象徴のようでとても頼もしく感じました。

観察会終了後、参加者のアンケートで、真実がロマンチックに美化されているのを知った他の班の指導員が、「それはないでしょう」とおっしゃったとか…。会報「しおかぜ」に掲載後、リーダーから指摘されて、谷津干潟で活動している指導員に聞いたり、本で調べたりして、カニや赤潮・プランクトンのことを改めて学びました。

<訂正記事>



卵を抱いたメス



卵

ゾエア幼生